

船見沢遺跡  
発掘調査報告書

1992

山 形 県  
山形県教育委員会

船見沢遺跡  
発掘調査報告書

平成4年3月

山形県教育委員会

## 序

本書は、平成3年度に山形県教育委員会が発掘調査を実施した船見沢遺跡の調査成果をまとめたものです。

船見沢遺跡は山形県酒田市の飛島に所在する遺跡です。飛島は山形県唯一の日本海に浮かぶ孤島で、島内での本格的な遺跡の発掘調査は昭和36年以後になります。

今回の調査により飛島で初めて縄文時代前期末葉の竪穴住居跡が見つかりました。竪穴住居跡やその周辺から出土した遺物には在地の土器の他に北陸地方や青森地方で出土する土器が出土しております。この様な調査結果から飛島では過か5,000年前から北方や南方の地域との活発な交流が行われていたことが明らかとなりました。

埋蔵文化財は私たちの祖先が長い歴史の中で創造し育んできた貴重な国民的財産であり、一度壊してしまえば二度と元に戻らないものです。調査により明らかにされた遺跡は過去の生活の有様を彷彿と再現してくれるものです。祖先の歴史を学ぶとともに愛護し子孫へと保存し伝えていくことが、現代に生きる私たちに課せられた重要な責務と言えるでしょう。

山形県教育委員会では、「心広くたくましい県民の育成」と地域文化の環境作りという立場から、今後とも県民福祉の向上を目的とした地域社会の整備と調整をはかりながら、埋蔵文化財の保護に努力を続けていく所存であります。

本書が埋蔵文化財に対する保護思想の普及もかねまして、皆様のご理解の一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査においてご協力をいただいた地元の方々をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

平成4年3月

山形県教育委員会教育長 木 場 清 耕

## 例 言

- 1 本書は、山形県教育委員会が平成3年度に実施した農免農道整備事業（飛鳥地区）に伴う緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は平成3年4月15日から6月7日まで及び9月9日～9月27日までの延べ44日間行った。
- 3 遺跡の所在地は山形県酒田市飛鳥字勝浦甲に所在する。
- 4 調査体制は下記の通りである。

調査主体	山形県教育委員会
調査担当	山形県埋蔵文化財緊急調査団
調査担当者	事務局 局長補佐 佐々木洋治
	調査班長 阿部明彦
	主任調査員 齊藤主税
事務局	事務局 局長 土門紹穂
	事務局 局長補佐 田苗健太郎
	庶務班長 野尻 侃
	主任事務員 新聞絃子・實間秀男・永井健郎・洪江正義
- 5 発掘調査にあたっては、庄内支庁経済部土地改良第二課・酒田市経済部農水産課・酒田市総務部とびしま総合センター・酒田市教育委員会・庄内教育事務所の関係機関、並びに地元飛鳥の方々のご協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。
- 6 本報告書の作成は齊藤主税が担当した。編集は齊藤主税及び安部 実が当たり、全体を佐々木洋治が総括した。
- 7 調査記録及び出土遺物については、山形県教育委員会が一括保管している。

## 凡 例

- 1 本書中の土色については「新版標準土色帳」(小山・竹原1970)を使用した。
- 2 遺構遺物には検出の順に一連番号を付している。本報告書で使用した記号は以下の通りである。

ST…	堅穴住居跡	SK…	土坑	SD…	溝跡	EP…	柱穴・小穴
SX…	性格不明遺構	XO…	出土地点不明				
- 3 報告書の執筆基準は以下の通りである。
  - (1) 平面図中では方位は磁北を表す。
  - (2) 遺構平面図・断面図は1/40・1/80・1/100・1/200・1/400の縮図で採録し、遺物実測図については1/2・1/3・1/4・1/6とし各々にスケールを付した。遺物図版の縮尺は1/2・1/3・1/4を基本としているが、遺物によっては任意で収録したものもある。
  - (3) 土層断面図の水平基点の数字は標高を示している。
  - (4) 遺構平面図の網点のスクリーントーンは燃焼部分を示す。

# 目 次

I 調査の経緯	
1 調査に至る経過 .....	1
2 調査の概要 .....	1
II 遺跡の立地と環境	
1 自然的環境 .....	1
2 歴史的環境 .....	2
III 遺構と遺物	
1 遺構 .....	2
2 遺物 .....	4
IV まとめ .....	18

## 挿 図

第1図 遺跡位置図 .....	3
第2図 グリッド配置図 .....	6
第3図 調査区断面図 .....	7
第4図 遺構全体図・ST1・ST2 .....	9
第5図 ST1・SX19出土遺物 .....	11
第6図 ST1出土遺物 .....	12
第7図 SX19・グリッド出土遺物 .....	13
第8図 ST1・グリッド出土遺物 .....	14
第9図 ST2出土遺物 .....	15
第10図 ST2出土遺物 .....	16
第11図 グリッド出土遺物 .....	17

## 図 版

図版1 遺跡遠景・前期調査区	図版6 ST1出土遺物
図版2 前期調査区近景・ST1	図版7 ST1・SX19出土遺物
図版3 ST1・作業状況・調査区土層断面	図版8 ST1・ST2出土遺物
図版4 後期調査区近景・ST2	図版9 ST2出土遺物
図版5 ST2・作業状況・調査説明会	図版10 ST2・グリッド出土遺物

## I 調査の経緯

### 1 調査に至る経過

平成元年秋に、農免農道整備事業（酒田市飛鳥地区）の対象地区について、県教育委員会で遺跡の表面踏査による分布調査を実施した。その結果、勝浦地区船見沢の南側台地上に小沢を挟んで隣接する二地点で遺物の散布が確認され、船見沢A遺跡・船見沢B遺跡の二遺跡として新規遺跡登録された。

このため、平成2年10月に遺跡の範囲、性格を明らかにして事業計画との調整を図る目的で試掘調査を実施した。この調査は遺跡内に約1m四方の試掘坑を38カ所設定して地山まで掘り下げるといったものであった。この結果、25カ所の試掘坑で竪穴住居跡や柱穴跡等が検出され、縄文土器・石器が出土した。また、船見沢A・B遺跡は連続する一つの遺跡で縄文時代前期末葉を中心とする集落跡であることが判明した。

以上の結果をもとにして県教育委員会で関係機関と協議を重ね工事に先立ち記録保存のための緊急発掘調査を実施することとなった。現地調査は事業地区内の畑地で作られている作物の採種作業との関係から前期と後期に分けて行われた。前期調査を平成3年4月15日～6月7日、後期調査を同年9月9日～9月27日に実施した。

### 2 調査の概要

調査は農免農道整備事業の路線内を対象とし、初めに工事対象区域に工事用杭を基線として5m四方を1単位とするグリッドを設定した。重機の搬入路などの関係から調査対象区域の表土は人力によるスコップなどを使用した手掘りによる表土除去を行った。その後ジョレンなどを使用して面削りを行い、竪穴住居跡などの遺構検出を行った。検出された遺構は半載または土層観察のため帯状に土を残して掘り下げ記録作業を実施した。

出土した遺物は遺構内からは遺構ごとに、それ以外のものはグリッドごとに記録し取り上げた。調査面積は前期750㎡、後期350㎡で全体で1,100㎡である。

## II 遺跡の立地と環境

### 1 自然的環境

船見沢遺跡の所在する飛鳥は北緯39度12分、東経139度31分の位置にあり酒田港から北西に39km、遊佐町吹浦港から30km、秋田県象潟町小砂港から29kmの距離にある多くの岩礁とともに日本海に浮かぶ小島である。島の成因は日本海大陸棚外縁に平行した2列の堆列が走り陸寄りの奥尻海嶺と呼ばれる新潟沖から粟島を経て奥尻島に向かう堆列の中央に位置している飛鳥塊の一部が海上に現れてできた隆起海蝕台地と考えられている。島の規模は長径3.26km、短径2.11km、全周10.2km、面積は2.36km<sup>2</sup>の小島である。島の大部分は海拔50m前後の平坦な台地で最高点は高森山の68mである。台地下の海岸沿いに現在の集落が発達しており台地上は畑地として利用されているだけである。周囲を暖流、寒流が流れることからタブ、ムベ等の暖地系植物、ハマナス・トビシマカンゾウの寒地系植物が混生しており植物学的に極めて貴重な島である。また渡鳥の中継地としても有名で約260種の鳥類が確認されておりウミネコの繁殖地として国指定されている。

船見沢遺跡は島の南西部分、勝浦港の北にある船見沢に築堤された水道用ダムの左岸の台地上の畑地に所在する。遺跡範囲は細長く南北200m、東西120m程と考えられている。南には葡萄崎遺跡が隣接し、北西は小高い丘陵で冬の北西風を遮り東に島海山を眺望する最も生活環境に優れた地区である。

## 2 歴史的環境

飛島の考古学的研究は昭和3年の阿部正巳が採取した柏木山遺跡の遺物を紹介したのが最初である。その後、当時の飛島小学校校長佐藤不二男が採取した遺物について昭和26年に長井政太郎が紹介している。昭和35年には川崎利夫が表面踏査を行い勝浦後方台地東側に数箇所の縄文時代の遺跡が所在することを確認した。これを受けて昭和36年には致道博物館と山形大学教育学部史学研究室が調査主体となり、柏倉亮吉を団長とする調査団が結成され二カ所の縄文時代遺跡が調査された。この調査では蕨山遺跡と葡萄崎遺跡を合わせて26㎡のトレンチ調査が実施され、完形復元土器3個体・千点の土器片・数十点の石器が出土した。蕨山遺跡より住居跡の柱穴と見られるピット、葡萄崎遺跡からは炉穴らしい遺構が発見されたと報告されている。蕨山遺跡では縄文時代中期大木7b式・円筒上層b式・縄文後期～晩期の遺物が出土、葡萄崎遺跡では縄文時代早期大木2b式・中期大木7b・8a・8b式期の遺物が出土している。これら縄文時代の遺跡は島の南端に近い東面する台地上に立地している。南から柏木山遺跡・蕨山遺跡・葡萄崎遺跡とされていた。隣接する柏木山遺跡と蕨山遺跡は同一遺跡の広がりがある。

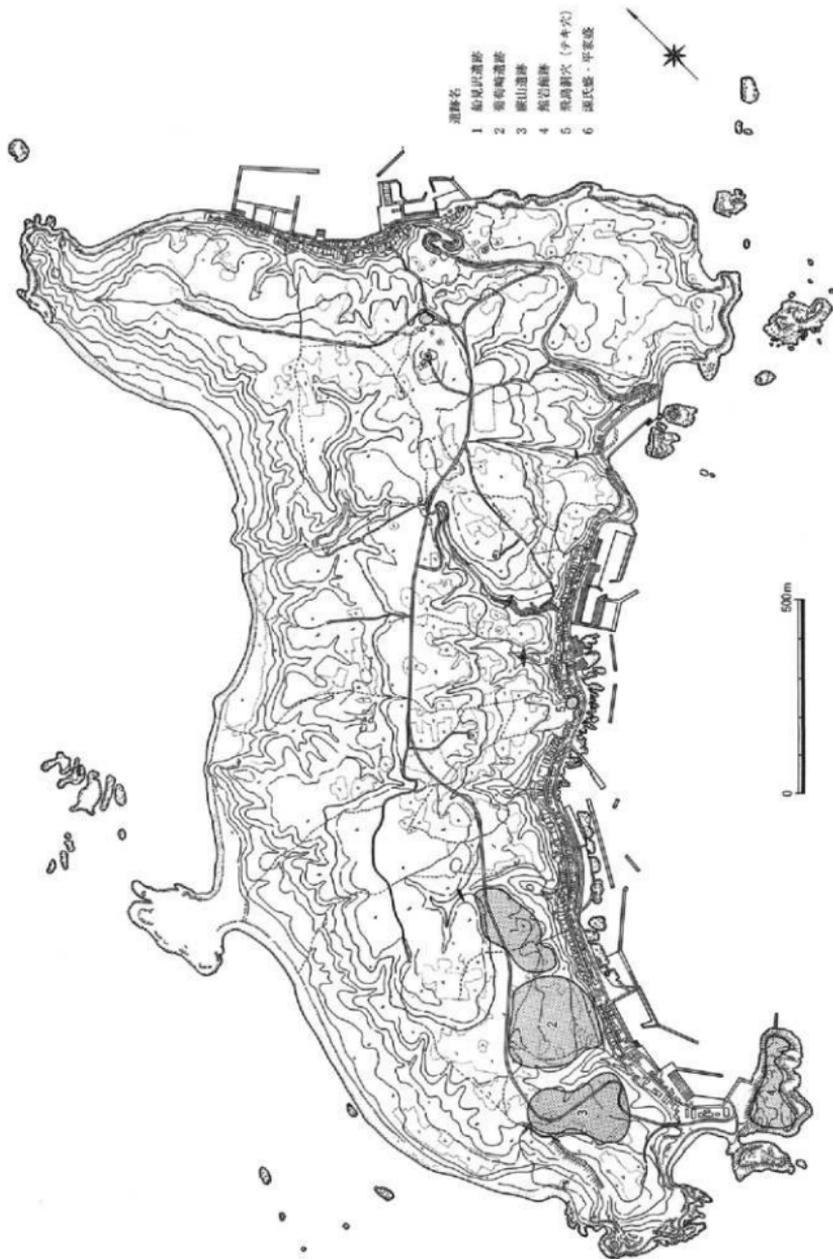
飛島洞穴遺跡（テキ穴）は勝浦集落と中村集落の中間地点の海岸線に南向きに開けている。第一洞窟は幅1.5m高さ3m奥行き24mあり、最奥部が左右二股に分かれる。右手の第二洞窟は巨岩で埋没し7m程で行き止まる。左手の第三洞窟は狭い入り口部分から奥行きが23mあり、その中央部は幅・高さともに4m、長さ8mの大きな岩室である。ここから人骨と伴に土師器・須恵器・鳥魚骨・貝殻・銅型金属器・骨角器（鳥骨縫針）が出土している。これらは2層に分かれ、第1層では10世紀前後の土師器等とともに胎児期・乳児期・少年期・青年期・成人期の人骨が10体出土し、第2層では9世紀前後の土師器等とともに幼年期・少年期・青年期・成人期の人骨12体が出土しており、二時期が認められた。これらは埋葬の可能性は極めて薄く、二つの時代に2世帯以上が居住しており一挙に絶滅した可能性が指摘されている。津波などによる自然災害の可能性が考えられている。

館岩館跡は本島南端の岩島頂上平坦部に立地し、石畳・土畳が構築されているが性格や時期などは不明である。また法木集落近くの台地には源氏盛、平家盛と呼ばれる塚状の盛土が所在する。

## III 遺構と遺物

### 1. 遺構

調査区は南北に約130mと細長く、中央部分に深さ2.3～2.5m、幅30m程の小沢があり調査区を二分している。この小沢の東側が前期調査区、西側が後期調査区である。調査区は路線西縁から東縁へ20～30cm程の高低差を持って傾斜している。前期調査区では暗褐色



第1圖 遺跡位置圖

の表土が15～20cm堆積し、黄褐色土層～明黄褐色土層の遺構検出面に到達する。

前期調査区で検出された遺構は1号竪穴住居跡やS X 19の他に、縄文土器・石器片が出土した土坑・柱穴・小穴等、37基である。後期調査区では2号竪穴住居跡の他に2条の溝と小穴4基が検出された。今回の調査区における遺構の分布は希薄で1号・2号竪穴住居跡やS X 19を除けばしっかりした遺構は検出されていない。

#### 第1号竪穴住居跡（S T 1）

南北3.5m、東西2.8mの方形を呈する。西壁は調査区外に位置し検出されない。壁は遺構確認面である地山のハードルーム様の黄褐色土層を約25～35cmほど、ほぼ垂直に掘り込んでいる。床面は黄褐色土を床とする直床で床面はやや凹凸があり南壁～東壁にかけてはS X 19風倒木に攪乱されている。このS X 19からも遺物が多数出土しており本迹の遺物と考えられる。住居内の西側に地床炉が2カ所検出されている。柱穴は北壁寄りに深さ30cm程のP 1が検出されているが他には検出されていない。

#### 第2号竪穴住居跡（S T 2）

後期調査区に位置する。南北4m、東西3.5mの不整形な方形を呈している。検出面からの壁高は10cm程で浅く、ハードルーム様の黄褐色土を掘り込む。床面は黄褐色土の直床で凹凸が多い。炉跡は検出されていないがP 1の柱穴が検出され径40～50cm、深さ20cmでしっかりとしているが、他は良好な柱穴は検出されていない。住居の内部には約1m程の土坑状のピットが2基検出されている。本住居跡と切り合っているか明確ではなかった。本住居跡については炉跡などが検出されずプランも不整形で竪穴住居跡としての認定には疑問が残る土坑などが切り合った遺構の可能性も考えられた。しかし、プラン検出時にほぼ方形のプランが確認されていたことや浅く不整形だが方形の掘り込みがあり、内部から遺物が集中して出土していることから竪穴住居跡と認定した

## 2 遺物

縄文土器・石器等の出土遺物は油脂箱で約10箱が出土しているがその7割以上が前期調査区より出土している。縄文土器以外では須恵器片・中世陶器片が数点出土している。遺物のほとんどはS T 1・S X 19・S T 2内およびその上面・周辺からの出土である。

石器は打製石器として石鏃・石錐・石銛・尖頭器・石匙・石鏃・搔器・削器があり磨製石器としては磨製石斧があり礮石器には磨石や凹石がある。

#### S T 1及び周辺出土遺物（第5図～8図）

1～4・5・20・69・76は所謂「金魚鉢形」の深鉢形土器。1～4は平口縁の結節状浮線文による深鉢形土器である。1・2・4は同一個体、76は波状口縁の結節状浮線文、79は細い粘土紐による鋸歯状文が施され器形は底部から直線的に立ち上がる深鉢形土器。6は波状口縁で口縁下部に刺突文・燃糸圧痕文・ボタン状貼付文が施される。5・20は同一個体、平口縁で竹管による太い沈線文を施し、胴部に平行沈線文や結節状浮線文を施文。69は波状口縁でやや太い沈線文を施文、胴部縄文R L施文後平行沈線による鋸歯状文・結節状沈線文施文の深鉢形土器。16は縦走の沈線文、87～89は格子目状沈線文、80は細かい

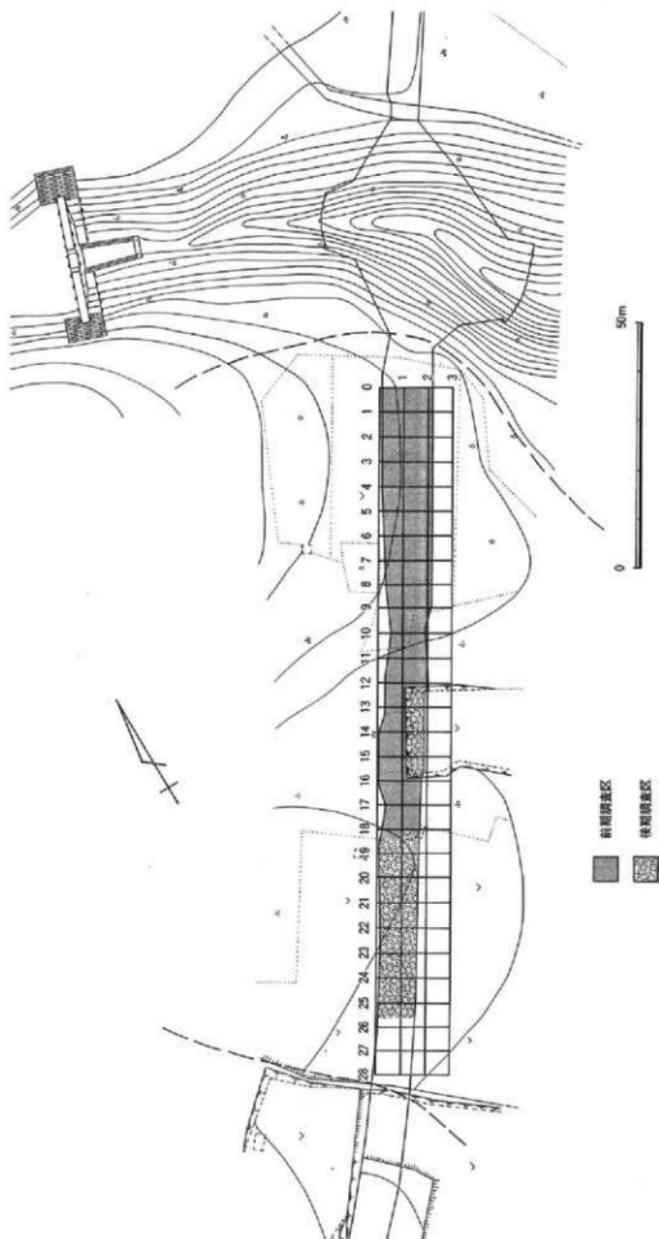
格子目文施文。31・71・77・78・81・83は半截竹管の平行沈線による鋸歯文及び波状文施文。26は細い櫛歯状施文用具による縦走の平行沈線文施文。13は胴部上半に燃糸疋痕文、下半部に燃糸文を施文。23は波状口縁に燃糸疋痕文及び隆帯に刻み目、24は口唇部指頭押圧され胴部に多輪絡糸体施文。7・8・10・11・14・19・72は口縁部に燃糸疋痕文施文、21・32・33は網目状燃糸文、12・18・82・84・85は燃糸文施文。27・74は同一個体で口唇部に刻み目及び羽状縄文、9・73は爪形文を施文。繊維混入土器は1・2・4・28・76・79を除き繊維を混入している。石器は34の石鏃、35～39の石筥、40～46・52～54の石匙、48～51の削器、56の石核。57～68は円形・縦長の磨石。石材は41・50は凝灰岩、46は鉄石英でこの他はほとんどが頁岩である。磨石の石材は安山岩である。

#### ST 2 及び周辺出土遺物 (第 9 図～11 図)

92・93・159～161は同一個体である。複合口縁で平行沈線による弧線文や鋸歯文で区画した内部を格子目文や平行沈線文で充填する。頸部隆帯に半截竹管による結節状沈線文、胴部には木目状燃糸文施文。90・99・105～109は口縁部が内湾する深鉢形土器。90は口縁部に隆帯を貼り付け、口縁下部まで平行沈線文を施文、同様の施文用具による鋸歯文でこれを区画している。胴部は結節縄文 R L。105～109は同一個体で90と同様の文様構成であるが鋸歯文の下部にも弧線状沈線文の施文があり、またその下部に木目状燃糸文を施文する。胎土も90に比べ砂粒を多量に混入している。99は口縁部に斜位及び縦走の平行沈線文を施文し下部に結節状羽状縄文施文。

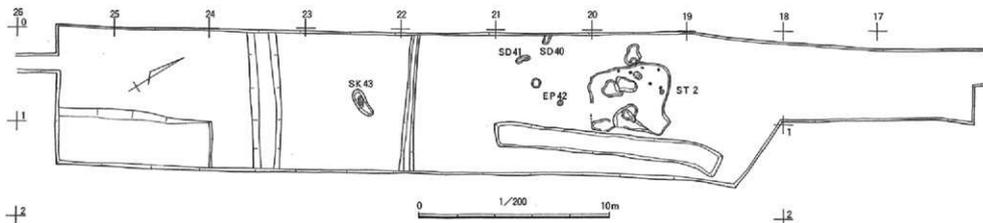
95・101・156・157は同一個体で半截竹管による平行沈線文、鋸歯文が施文される。95に見られるような平口縁の部分と、157に見られる三角形の波状口縁に刻みと隆帯を施文される部分を有する深鉢形土器。110～113は結束木目状燃糸文、102・114・115・117は木目状燃糸文。110は117と同一個体で口縁部に燃糸文を施文し隆帯を巡らしこれに半截竹管による刺突文施文。その下部には結束木目状燃糸文を施文し底部から直線的に立ち上がる深鉢形土器。103・104・116は結節縄文、118は羽状縄文。94・96・100・152・158は口縁部に燃糸文を施文し94・154は胴部に羽状縄文、100は木目状燃糸文を施文する。これらも110などと同様の深鉢形土器である。98・150は燃糸疋痕文、155は結節羽状縄文。147と149は同一個体で多輪絡糸体施文。145・146・148は波状口縁の深鉢形土器で145は口唇部に燃糸疋痕文、その下部に平行沈線による波状文、さらに隆帯に燃糸疋痕文施文。148は平行沈線文やボタン状貼付文が施文され、91は細かい結節状浮線文が施文される深鉢形土器の口縁部、154は結節状浮線文や燃糸文を施文される。繊維混入の土器は94・111・113・115・118・145～149・152・154・158で、この他は混入していない。

石器では110～125・129～136・162～168は石鏃、126は鋸、127・128は鎌、138は石筥、137は磨製石斧、139～144・171・172は磨石、170は凹石である。石器の石材は123～125・130・136・164・165は緑色～深緑色を呈する石英質石材、119・120・127・131・134・162・163・167・168は灰色～赤色の石英質石材である。137は蛇紋岩で磨石は安山岩である。174・176は須恵器片、173・175は中世陶器片である。

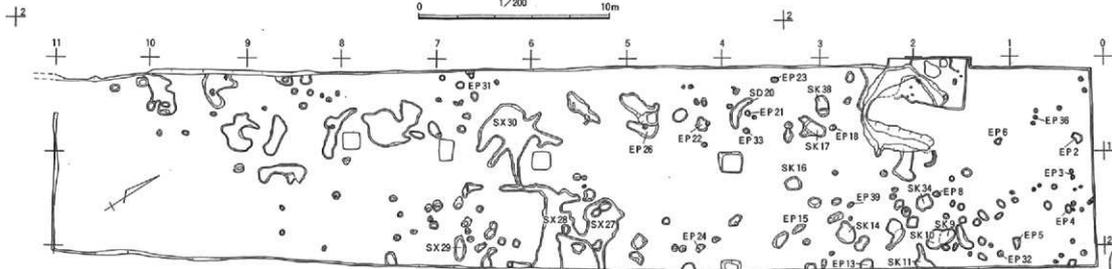


第2図 グリッド配置図

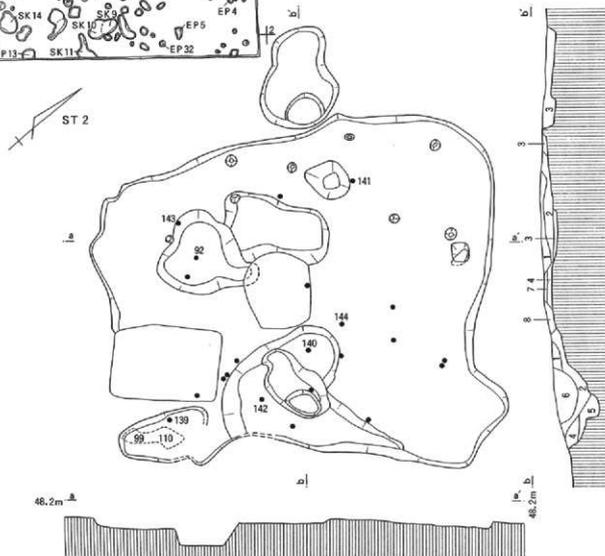
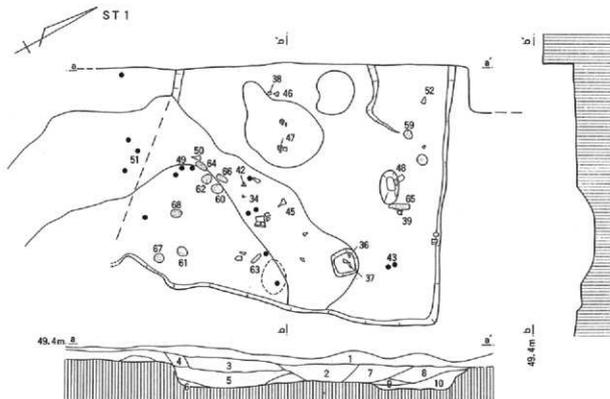




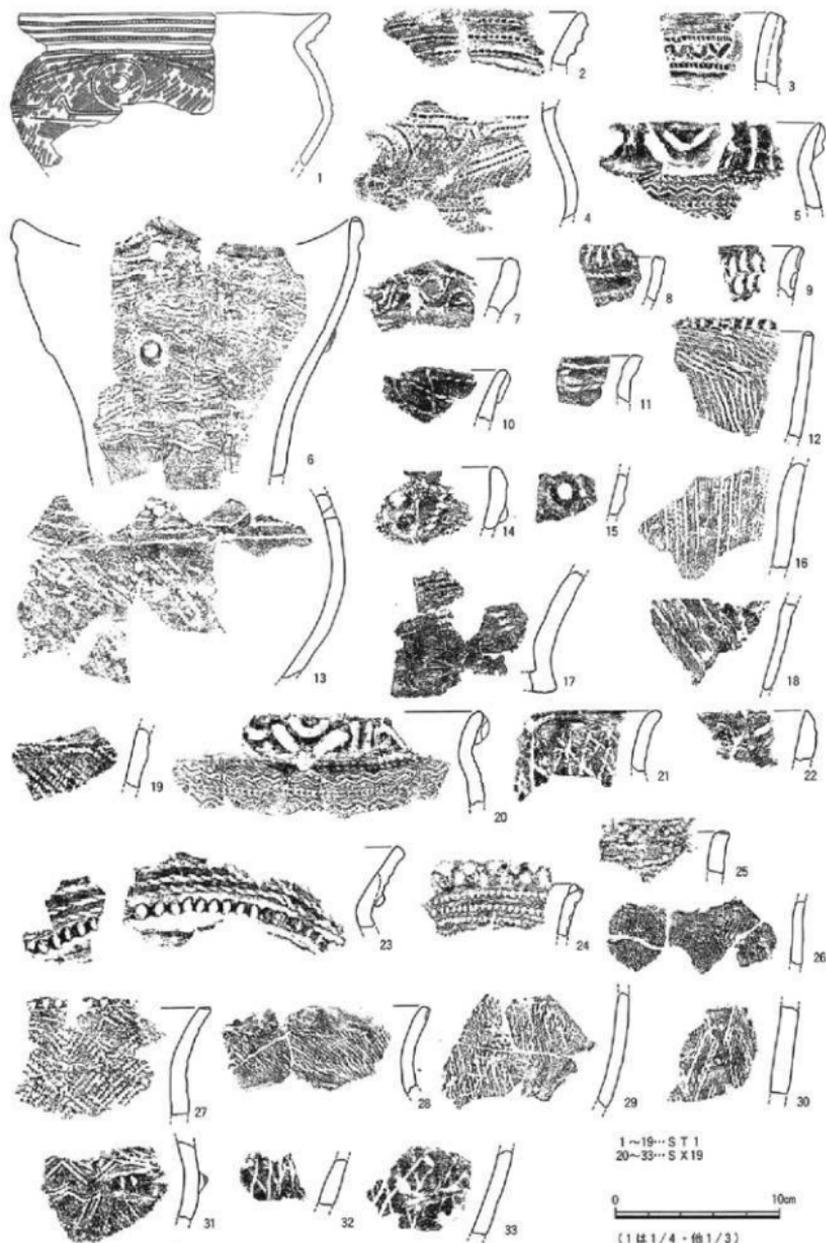
- ST 1
- 1 10Y R 4/4 褐色土 本炭粒混入。
  - 2 10Y R 3/4 暗褐色土 雑草?しまりが多い。
  - 3 10Y R 4/4 褐色土 本炭粒、磁土粒をわずかに混入。
  - 4 10Y R 4/4 褐色土 3と同様だが磁土でかなり混入。
  - 5 10Y R 5/6 黄褐色土 若干ながら磁土を多量に混入。
  - 6 10Y R 5/6 明褐色土 ハードローズ風。
  - 7 10Y R 3/4 暗褐色土 軟弱で微塵風だが遺物混入。
  - 8 10Y R 3/4 暗褐色土 しまっており遺物多量に混入。
  - 9 10Y R 3/3 暗褐色土 よくしまっている。
  - 10 10Y R 5/4 におい黄褐色土 よくしまり遺物混入。
  - 11 8とはほぼ同じだが若干軟弱で遺物を混入しない。



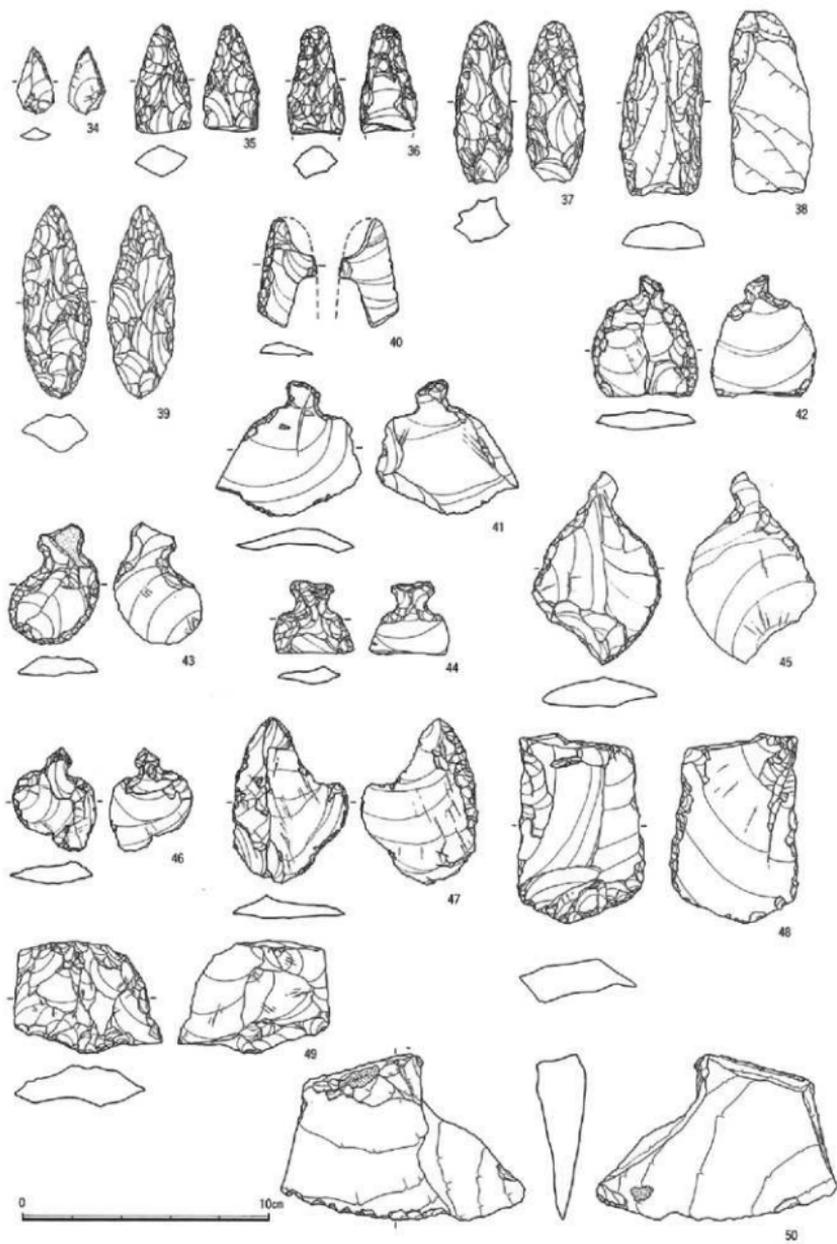
- ST 2
- 1 10Y R 3/4 暗褐色土 本炭粒混入。
  - 2 10Y R 4/4 褐色土 本炭粒わずかに混入。
  - 3 10Y R 5/6 黄褐色土 3と同様だが3よりしまりあり。
  - 4 10Y R 5/6 黄褐色土 3と同様だが4を多量に混入し本炭粒も混入する。
  - 5 10Y R 4/4 褐色土 2と同様だが4を多量に混入し本炭粒も混入する。
  - 6 10Y R 3/3 暗褐色土 本炭粒少量混入。
  - 7 10Y R 5/4 におい黄褐色土 黄褐色土粒混入。
  - 8 10Y R 4/4 褐色土 黄褐色土粒混入。



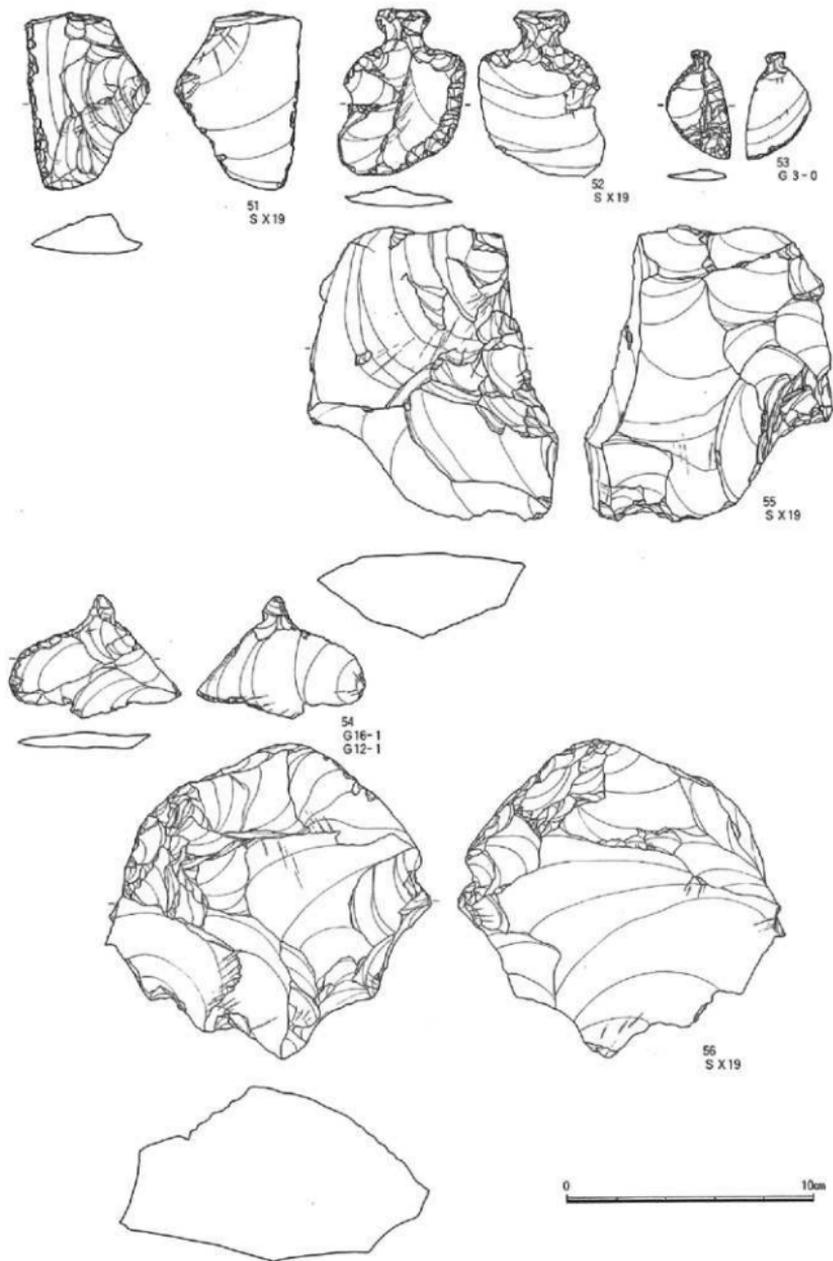
第4図 遺構全体図・ST1・ST2



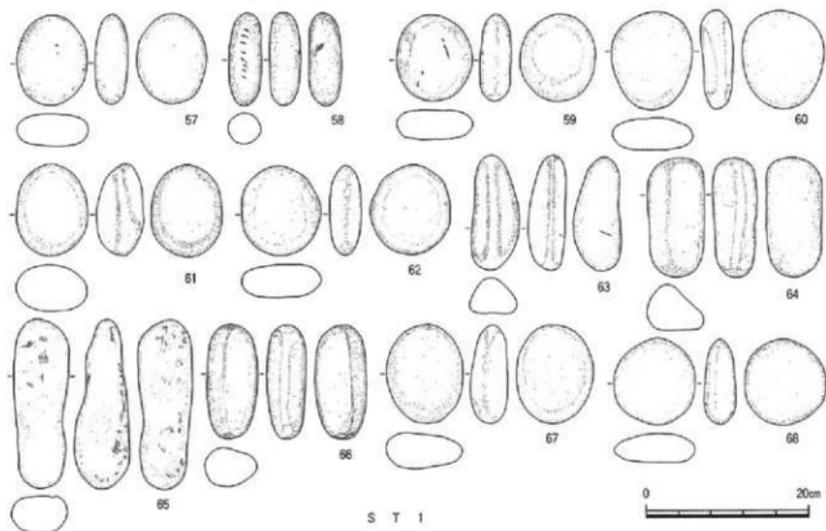
第5図 ST 1・S X 19出土遺物



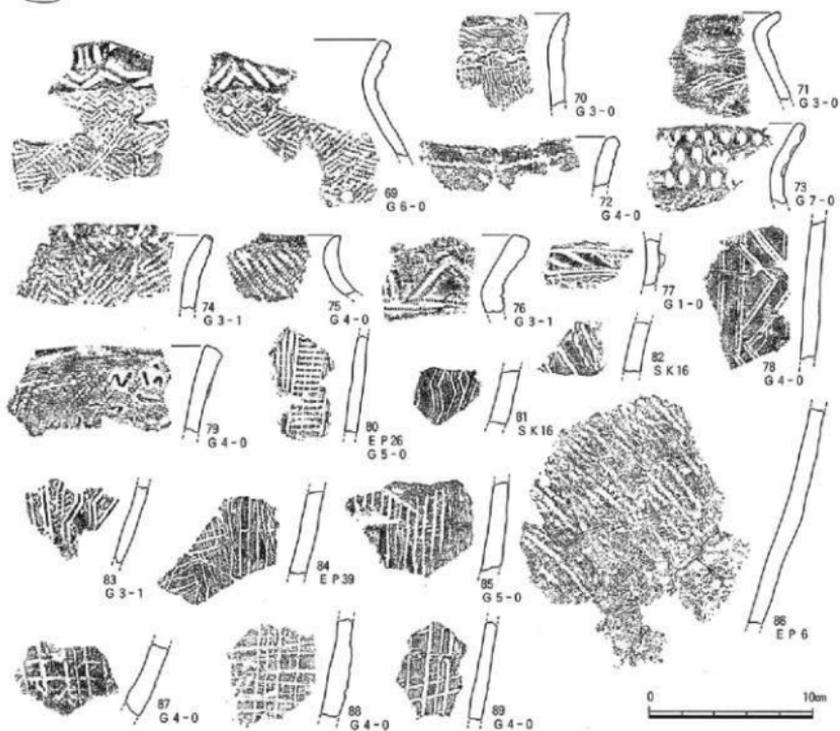
第6图 ST1出土遗物



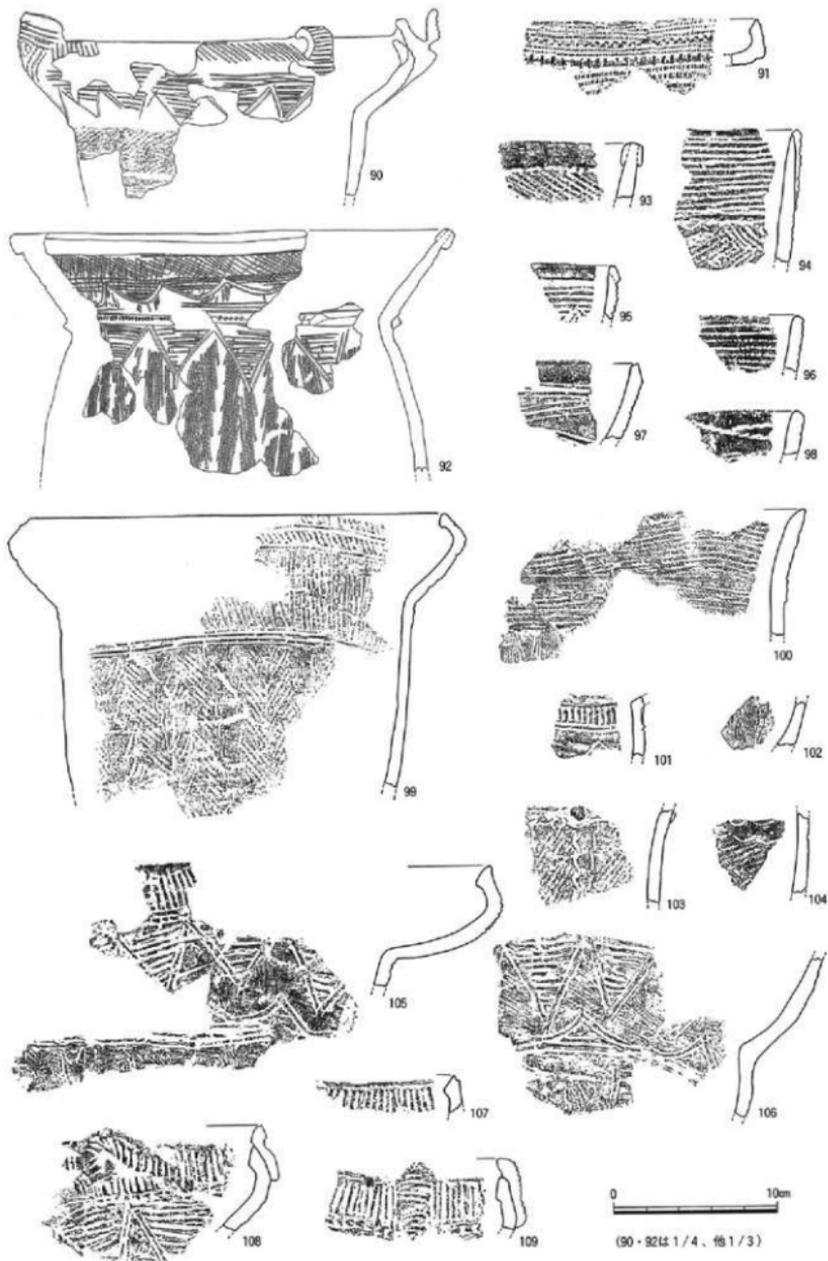
第7図 S X 19・グリッド出土遺物



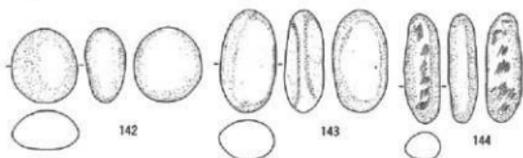
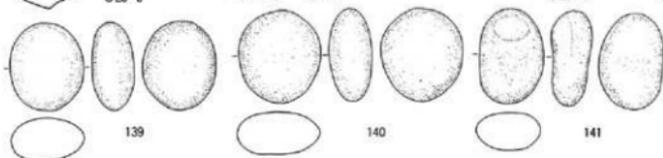
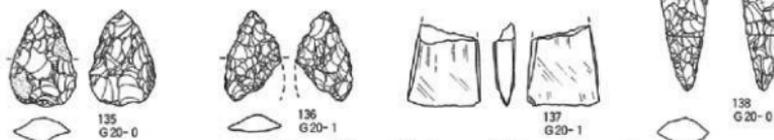
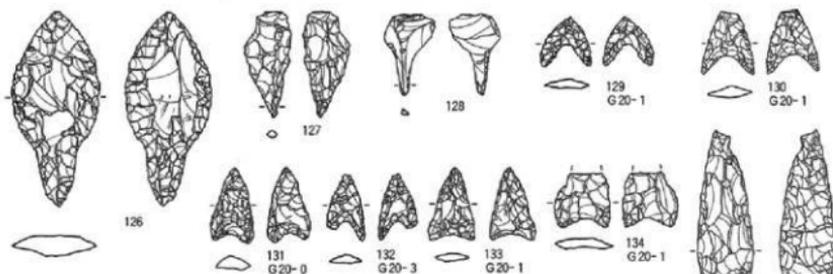
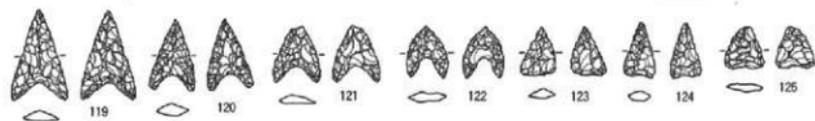
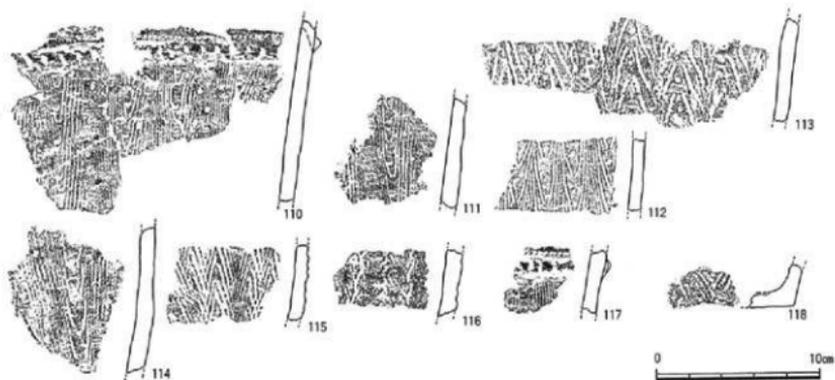
S T 1



第8図 ST1・グリッド出土遺物



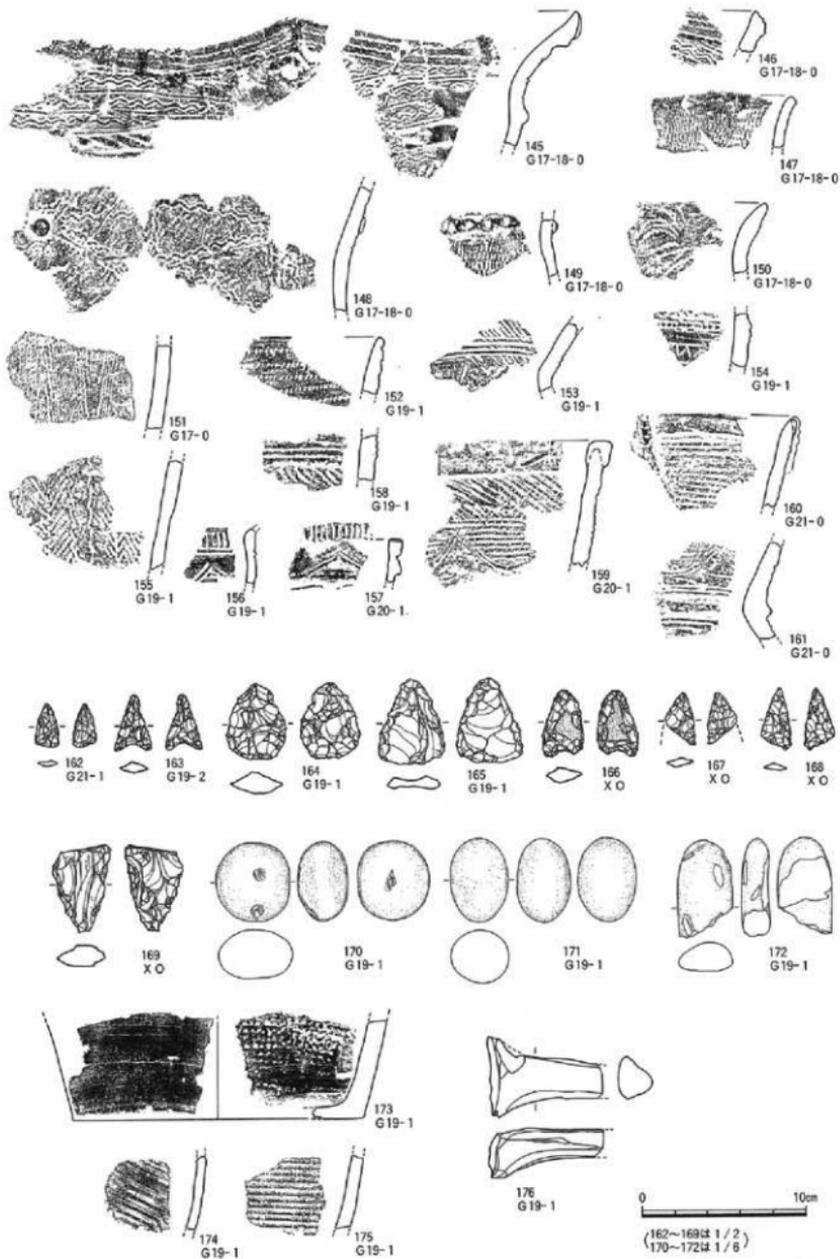
第9図 ST 2出土遺物



0 10cm

(131~138以外はS T 2出土)  
 (119~138は 1/2  
 139~142は 1/6)

第10図 S T 2出土遺物



第11図 グリッド出土遺物

## IV まとめ

### 遺構

今回の調査で検出された主な遺構は竪穴住居跡2棟と土坑跡・柱穴跡・溝状遺構・性格不明遺構等が40数基である。1号竪穴住居跡と2号竪穴住居跡は幅30mほどの小沢を間にして構築されている。これらの住居は内部から出土した遺物から縄文時代前期末葉の時期と考えられる。今回の調査は約10mの道路幅のみの発掘調査であるが、調査の結果路線外に遺構は広がりさらに数棟の住居跡等が所在しているものとみられる。

### 遺物

縄文土器・石器等の出土遺物は油脂箱で約10箱が出土している。そのうち7割以上が前期調査区より出土している。縄文土器以外では須恵器片・中世陶器片が数点出土している。

出土遺物のほとんどはST1・SX19・ST2内およびその上面・周辺からの出土である。その他的小ピットや土坑内からは1箱程出土するのみである。出土遺物は縄文時代前期末葉大木6式、朝日下層式、円筒下層式の縄文土器と石銚や石鏃、磨石などの石器が主体である。須恵器片や中世陶器片に伴う遺構は検出されていないが平安時代、中世の遺跡であるテキ穴や館岩との関連として注目される。ST1とST2は小沢を挟んで90mほど離れた住居跡であるが出土遺物もST1は在地の大木6式の土器を主体としておりST2では北陸系の朝日下層式土器が主体であり明確に様相を異にしている。出土石器の石材もST1付近ではほとんど頁岩であるがST2及びその付近では緑色の石英質石材の石鏃が多数出土しており特徴的である。

石器は打製石器として石鏃・石錐・石銚・尖頭器・石匙・石筥・搔器・割器があり磨製石器としては磨製石斧があり、礫石器には磨石や凹石がある。本遺跡の縄文土器は大木6式土器を中心として朝日下層式や円筒下層式土器があり石器のほとんどはこれらの土器と同時期と考えられる。

今回の調査では本島で初めて縄文時代前期の竪穴住居跡が検出された。この住居内からは新潟、北陸地方及び秋田以北東北北部との交流を物語る遺物が検出された。日本海交易は中世から近世に繁栄を迎えることが知られているが、既に5,000年以上以前に同様な交流が行われていたことが今回の調査により明らかにされた。さらに来年度は巖山遺跡の発掘調査が予定されており、その成果が注目されることである。

### 引用・参考文献

- 川崎利夫(1971)「特集山形県飛鳥の遺跡」[庄内考古学第10号]
- 植倉亮吉他(1982)「山形県史第1巻」原始・古代・中世編
- 渋谷孝雄・佐藤正俊(1984)「吹浦遺跡第1次発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第82集
- 渋谷孝雄・佐藤正俊(1985)「吹浦遺跡第2次発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第93集
- 高畑勝喜・小島俊彰・加藤三千雄他(1986)「真脇遺跡」能都町教育委員会
- 渋谷孝雄・黒坂雅人(1988)「吹浦遺跡第3・4次緊急発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第120集
- 山形県教育委員会(1980)「分布調査報告書(17)」山形県埋蔵文化財調査報告書第148集
- 佐藤正俊(1990)「飛鳥の洞窟遺跡」『海と列島文化1』
- 山形県教育委員会(1991)「分布調査報告書(18)」山形県埋蔵文化財調査報告書第163集

圖 版



遺跡遠景(東から)



前期調査区(北から)

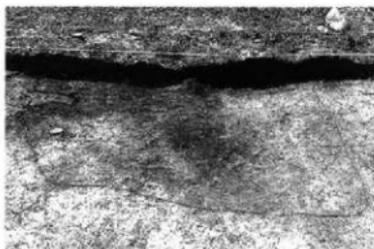
図版 2



前期調査区近景 (北から)



前期調査区 (南から)



ST1 (東から)



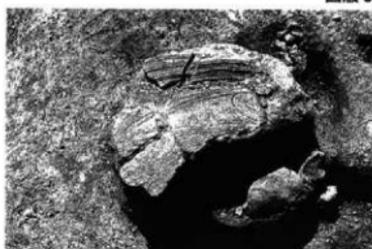
ST1 (東から)



ST1 (北から)



ST1 (北から)



ST1 出土遺物



作業状況(南から)



作業状況(北から)



SX19(東から)



グリッド5-1土層(東から)



グリッド11~18-0付近(南から)



岡左土層(北東から)

図版 4



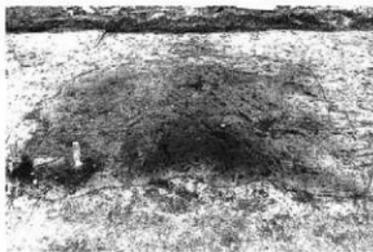
後期調査区近景(南東から)



後期調査区(北から)



後期調査区(南から)



ST 2(東から)



ST 2(南から)



ST 2 (南から)



ST 2 (北から)



ST 2 出土遺物



ST 2・99出土土状況



作業状況(北から)



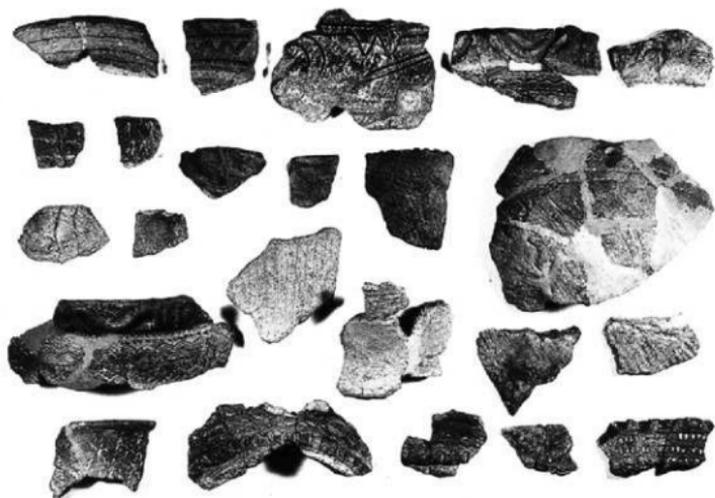
作業状況(北から)



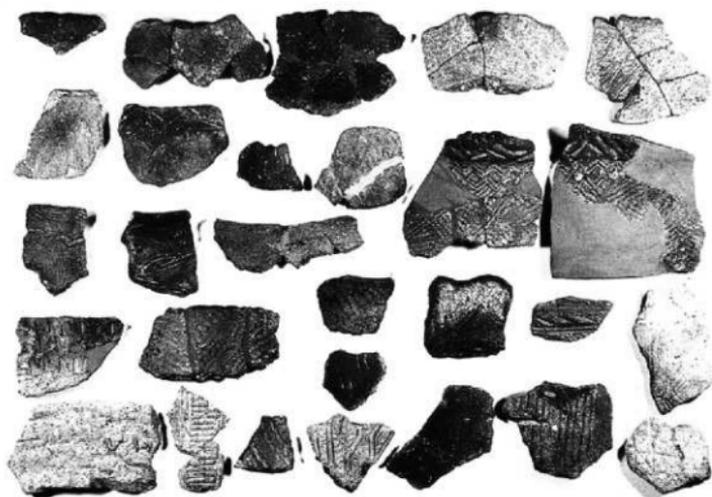
調査説明会



休憩風景



ST 1・2~24



ST 1・25~89



ST1・1



ST1・6



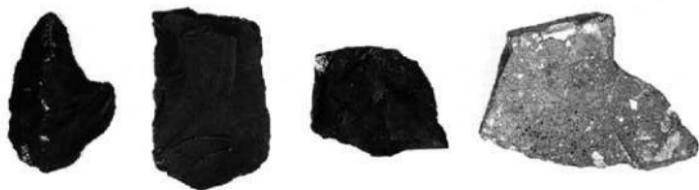
SX19・55



SX19・56



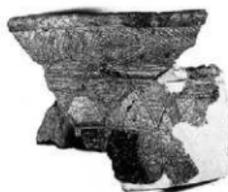
ST1・34~46



ST 1、S X19・47~54



ST 2・90



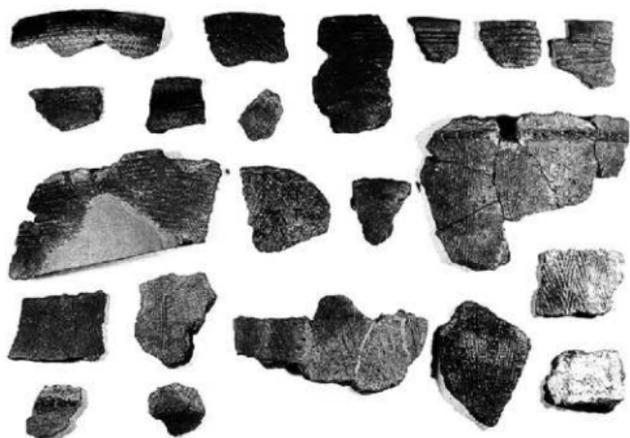
ST 2・92



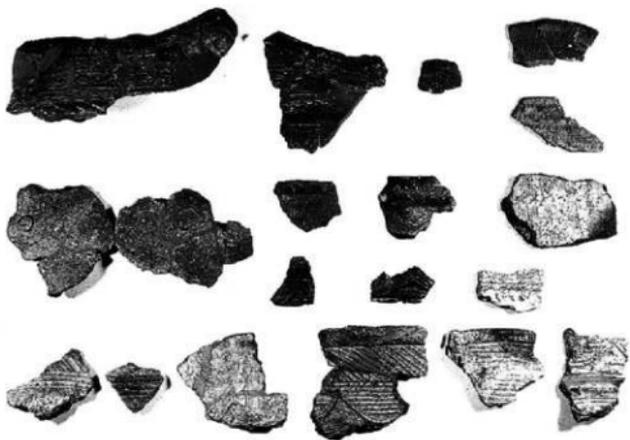
ST 2・99



ST 2・105~109



ST 2 · 91~118



ST 2 · 145~161



S T 2 · 119~138 · 162~169



173外



173内



174 · 175



176

---

山形県埋蔵文化財調査報告書第177集

船見沢遺跡

発掘調査報告書

平成4年3月25日発行

発行 山形県教育委員会

印刷 大場印刷株式会社

---